

東海大学社会教育センターだより

# 海のはくぶつかん



干支の魚 ウマヅラハギ

**Vol.44** No.1

2014.1 冬号

**C O N T E N T S**

- |                    |                                       |              |   |
|--------------------|---------------------------------------|--------------|---|
| <b>特 集</b>         | ・ 2014新春 ～干支の生きもの～<br>魚界の“馬面(ウマヅラ)”たち | ————— 長谷部阿由美 | 2 |
| <b>特別展</b>         | ・ 好評開催中！海の生きもの美術館                     | ————— 富山晋一   | 4 |
| <b>特別展</b>         | ・ 集まれ魚！モザイクアート展                       | ————— 石橋忠信   | 6 |
| <b>話 題</b>         | ・ 雨に泣くイベント                            | ————— 石橋忠信   | 7 |
| <b>INFORMATION</b> |                                       |              | 8 |

2014新春 ～干支の生きもの～

# 魚界の“馬面(ウマヅラ)”たち

長谷部 阿由美

Ayumi HASEBE

新年、明けましておめでとうございます！この時期になるとあちこちで見かける干支の動物。当博物館でも毎年お正月に、干支に因んだ海の生きもの『干支の生きもの』を紹介しています。今年は七番目の「馬」が主役です。

突然ですが、「皆さん、馬のマネをしてください！」と言われたら、どのようにされますか？「ひひーん」という声を真似ますか？それとも縦に長い馬の顔？さすがに声は難しいですが、馬面であれば、海の生きものだって負けてはいません。今回は馬の顔に似ているからウマ(英名：Horse)と名付けられた筆者おススメの「魚界の馬面」をご紹介します。

## ◇うまづらはぎ◇

【漢字：馬面剥、中国名：馬面魷】

フグ目カワハギ科

国内では北海道から九州に分布し、沿岸域の砂泥底や岩礁に生息します。体長は約32cmになり、長い顔を持つことからこの名がついたそうです。小さなおちょぼ口を使って、砂や泥の中にいるカニ・ゴカイなどの小型甲殻類を探し出し、食べる習性があります。時にはクラゲを食べることもあります。

カワハギの仲間の多くは眼と口が離れており、他にも、サンゴ礁で見られる「アミメウマヅラハギ」「メガネウマヅラハギ」、水深100m以深の深場で見られる「アズキウマヅラ」「ゴイシウマヅラハギ」「センウマヅラハギ」という“馬面”軍団がいます。



## ◇くろうみうま<sup>(1)</sup>・おおみうま<sup>(2)</sup>◇

(1) 【漢字：黒海馬、中国名：黒海馬/管海馬、英名：Yellow seahorse/Spotted seahorse】

(2) 【漢字・中国名：大海馬、

英名：Great seahorse/Kellog's seahorse】

トゲウオ目ヨウジウオ科

この2種は、一昨年干支「辰」でも紹介した、タツノオトシゴの仲間です。日本国内で生息が確認されている7種のうち、ほとんどは「〇〇タツ」と名付けられています。しかしこの2種のみ「ウマ」が付きます。

両種の姿かたちはよく似ていますが、尾輪数(肛門から尾の先までの、節状をした輪の数)が異なること、オオウミウマの方が大型になることで区別されます。

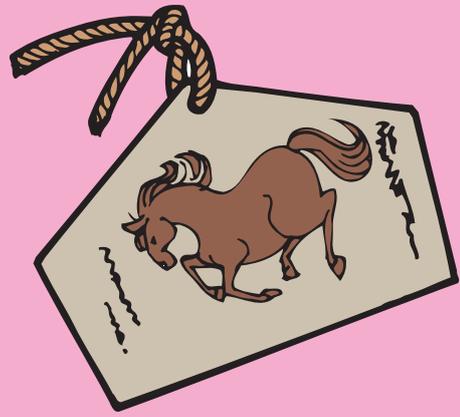
◎クロウミウマ：体長/約17cm、分布/四国・屋久島・琉球列島

◎オオウミウマ：体長/約25cm、分布/相模湾～九州の太平洋沿岸・能登半島～九州の日本海沿岸・屋久島・奄美大島

日本では“タツ”に例えられることが多いこの仲間は、海外に行くと「海の馬」と呼ばれます。学名でも、古代神話に登場する海の神「ネプチューン」の戦車を引く、上半身が馬、下半身が魚の生物“Hippocampus”が使われています。直立した体勢で泳ぐ姿が、馬の顔から長い首あたりを連想させるのかもしれませんが。

※下の写真はクロウミウマです。





## ◇まとうだい◇

【漢字：馬頭鯛】

マトウダイ目マトウダイ科

国内では北海道から九州に分布し、水深30～400mの深場に生息します。体長は約30cmになります。普段収まっている口部は、エサを食べるときに長く伸び、一瞬にして獲物を飲み込んでしまいます。口が長く伸びたときの姿が“馬面”に例えられ、馬頭鯛（バトウダイ）が変化し、マトウダイと呼ぶようになったそうです。（※体の模様が弓矢的の似るため、『的鯛』となった、という説もあります。）



が、日本では淡白な白身ながら食べると甘みがあるため、「甘鯛」と呼ぶようになったそうです。アマダイの仲間「きあまだい」は別名『興津鯛』とも言い、徳川家康の好物でもあったと伝えられています。



以上のように魚の世界では、目と口の間が大きく離れていると、馬に例えられることが多いようです。新春特別展示『干支の生きもの 一午一』では、ここで紹介した“馬面”の一部を皆様にお披露目いたします。また、当展示では、馬に関連した“馬糞”や“鞍”にちなんだ生きものも一緒にご紹介します。

当博物館の近隣には、昨年世界遺産に登録された富士山と三保の松原があり、新年のお参りに訪れる予定の方もいらっしゃると思います。壮大な富士山を眺めた後には、ぜひ、当館の可愛い“海の馬面”たちに会いに来てください。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

※展示期間：2014年1月1日（水）～13日（月）

## ◇あかあまだい◇

【中国名：日本馬頭魚、英名：Horse-head fish】

スズキ目アマダイ科

国内では青森県から九州に分布し、水深約20～150mの砂泥底に生息します。体長は約35cmになり、横から顔を見るとやや四角形で、上端に眼、下端に口と、他の魚とは少し変わった顔立ちをしています。生活の仕方も変わっています。砂泥底に穴を掘ってその中にすみ、穴の上を通りかかった魚や甲殻類などに飛びついて食べる習性があります。

海外では「ウマの頭をした魚」と名付けられています



# 好評開催中！海の生きもの美術館

富山 晋一  
Shinichi TOMIYAMA

昨年10月12日より、海洋科学博物館では特別展「海の生きもの美術館」を開催しています。展示しているのは、海の生きものに関する美術品や標本など、人の手が加わることで生体そのものにはない新たな魅力を得た逸品です。前号では準備中の展示内容について書きましたが、今回は完成した会場の写真を交えつつ、見どころをご紹介します。

会場の様子は写真1の通りです。壁紙や展示ケースのデザイン、展示物の配置にあたっては、今回のテーマに合わせて美術館らしさを意識してみました。展示は以下の6コーナーからなります。

## 1. 最古の彩色海洋動物図鑑

18世紀初頭に出版された海洋動物図鑑の、事実と虚構が混在する幻想的な図版の展示です（写真2）。この



写真2 博物画の展示

図鑑は世界にわずか60部ほどしか現存しない貴重書ですが、今回、本書を所蔵する人間文化研究機構国文学研究資料館より、画像データを借用させていただきました。選りすぐりの15点の中には人魚の飼育記録などもあり、興味深い内容です。



写真1 特別展の会場



## 2. THE STRUCTURE ～魚類の構造～

筋肉を透明化し骨格を2色に染色した特殊な標本と、レントゲン写真の展示です（写真3）。細かくて精密な骨格には、芸術的な美しさがあります。



写真3 レントゲン写真の展示

## 3. 剥製

もともと美術品として認知度の高い剥製の展示です（写真4）。生きていたときの特征を見事に再現した、職人の技が光る作品となっています。



写真4 剥製の展示

## 4. 貝殻 海から来た宝石

かつて貨幣としても用いられていたタカラガイの仲間を中心とする、貝殻の展示です（写真5）。貝は種類によって色、模様、形が様々で、熱心なコレクターが存在するのも頷けます。



写真5 様々な貝殻の展示

## 5. 海の生きものの工芸品 ～海のおみや～

海の生きものを素材とするお土産品の展示です。王道的なフグ提灯や、貝殻を加工したおしゃれなランプシェードなど、思わずほしくなる逸品が見つかるかもしれません。

## 6. 影の水族館

焼津水産高等学校のメタルクラフト部による、シャドーアート作品です（写真6）。一見、木材の塊のようですが、光を当てると…… どのような形の影が浮かび上がるのかは、会場でご確認ください。



写真6 シャドーアートの展示

いかがでしょうか？特別展の開催は本年2月2日（日）までです。ぜひご来館のうえ、これらの展示を間近にご覧いただきたいと思います。

# 集まれ魚！モザイクアート展

石橋 忠信  
Tadanobu ISHIBASHI

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は夏に富士山の世界文化遺産登録といううれしいサプライズがあり、私たちの博物館でもこれを記念していくつかの企画展示を実施しました。

その中から、ここでは文化遺産にちなみ文化の日に合わせて開催した企画展『集まれ魚！モザイクアート展』をご紹介します。



写真1 企画展示の様子

今回の登録の中には、博物館がある三保の松原が構成資産として含まれています。

どうして富士山が対象なのに三保の松原が含まれることになったのかと考えてみますと、文化というキーワードに注目させられることになります。



写真2 富士山

富士山は絵画や写真など芸術の分野でもそのテーマになることが多く、数えきれないほどの写真や絵画が残されています。中でも有名な作品として知られているのが浮世絵で、富嶽三十六景などは世界的にも有名な作品です。この浮世絵がヨーロッパの画家たちに与えた影響はとて大きいとされているため、このあたりが三保の松

原が含まれた理由なのかとも思います。



写真3 葛飾北斎：凱風快清（赤富士）

ところで、これらの作品の中には富士山を単独で扱った物もありますが、富士山の前に広がる駿河湾や海岸を含んだ構図の作品も見ることができます。また、私たちがよく耳にする言葉に「白砂青松」がありますが、白い砂浜と緑の松とのコントラストの美しさから、美しい海岸の代名詞として使われています。つまり海岸と松と富士山は、美しい物の代表としては最高の組合せになります。また、「一富士、二鷹、三なすび」や「松竹梅」などのように、縁起の良い物や価値のあるものとしても、私たちに馴染みのある組合せです。

このように江戸時代の大衆文化として親しまれた浮世絵を皆さんと一緒に楽しんでみようと考えたのですが、ただ単に浮世絵をご覧いただくのであれば会場が私たちの博物館である必要はありません。

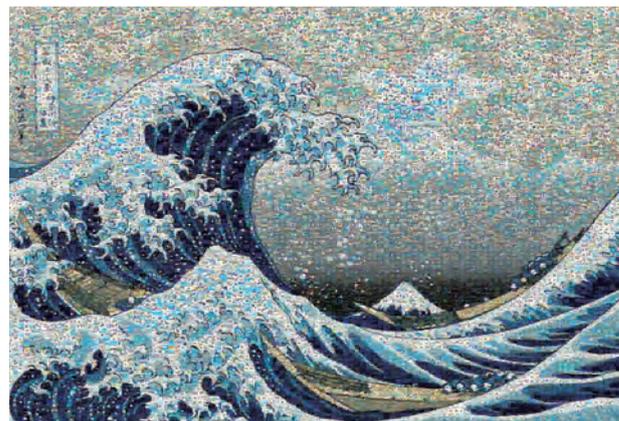


写真4 葛飾北斎：相模沖浪裏

そんな折に、フォトモザイクやモザイクアートと呼ばれる表現方法があることを知りました。それは大量の写真を使って全く別の絵を表現する技術ですが、タイル画像と呼ばれる大量に使用する写真として、私たちが撮影した生物の写真が使えないかちょっと試してみました。



写真5 赤富士の一部を拡大

その結果、対象としている絵画とその絵を構成している魚の写真を両方楽しめる作品ができましたので、いくつかの浮世絵作品を作り、皆様にご覧いただくことに

しました。

展示は講堂前のギャラリースペースを使用し、富士山や三保の松原などの写真、そして皆様にも見覚えの



写真6 展示場俯瞰図

ある有名な浮世絵作品を何点か展示しました。どこにどんな魚がいるのか皆さんで探してみてください。

その中で、写真3としてご紹介している「赤富士」は、体色が赤に近いクマノミ類の写真だけで構成されています。また、逆に富士山のタイル画像で構成した魚のモザイクアート作品も制作してみましたので、こちらもお楽しみください。

この企画展示は、先行スタートした「生きもの美術館」の会期に合わせ今年の2月2日（日）まで開催中です。魚が好きな方は一度ご覧になって、私たちの博物館の魚と浮世絵との対比をお楽しみください。



話題

## 雨に泣くイベント

石橋 忠信  
Tadanobu ISHIBASHI



自然史博物館では、自然に親しみ、皆さんに身のまわりの自然を知っていただく秋のシーズンに自然観察フィールドワークを実施しています。

例年、三保の海の生物と有度山の地質や化石をテーマに実施するのですが、昨年は富士山が世界遺産に登録されたこともあり、宝永火山の見学をテーマに設定してみました。

富士五合目から宝永火口に登り、火山の地形や植物などについて、実際にその場所へ行って見学していただくと考えていたのですが、何と、当日は雨。

博物館から富士山までは距離がありますから、清水区で雨だったとしても富士山の方とは、かすかな希望を持って出発することにしたのですが、富士山に近づくに従って徐々に雨は強くなり、駐車場に着いた時には横殴りのドシャ降りとなっていました。

しばらく待っていたのですが、一向に回復する気配がなかったため、残念ながら宝永火口の見学はあきらめ、近くにある博物館の見学に変更することになってしまいました。

その一週間後、化石をテーマにしたプログラムを予定していたのですが、数日前から台風が通過するという予報が出ています。

前日は午前中で雨が上がるという予報も空しく、お昼を過ぎても雨がシトシト降り続いています。夕方には上がったため、翌朝の状況を見て実施を決定しようということになりました。

フィールドワーク当日。天候は薄曇りですが、とにかく現場まで行ってみようと、博物館を後にしました。

幸いなことに、何とか現場にたどり着くことができ、化石を掘る場所も、小人数であれば作業できそうな状況でした。普段は2つのグループに分かれて見学するのですが、今回は3つのグループに分けて何とか無事にプログラムを消化することができました。

博物館の中であれば天気を気にすることも少ないのですが、自然が相手となると… なかなか思う様には行かないと、改めて思い知らされた2日間でした。

# 海洋科学博物館・自然史博物館



## 博物館 情報

## 2014年 お正月イベント

### ●東海大学海洋科学博物館

### 「干支の生きもの 一午一」

1月1日(水・祝)～  
13日(月・祝)まで!

2014年の干支(午)にちなみ、海にすむ馬に関する生きものをご紹介します。  
おめでたい新年の展示を、是非ご覧下さい。



### ●東海大学自然史博物館

### 「里山に侵入する外来生物」

1月1日(水・祝)～5月6日(火・振)まで!

静岡県の豊かな里山にも、気がつくとき多くの外来生物が侵入しています。ブラックバスやブルーギルやアライグマやハリネズミ、カミツキガメだけでなく、アルゼンチンアリなど昆虫やオオキンケイギクなど植物も日本の自然に侵入してきています。静岡県の里山に侵入する様々な外来生物の存在を知っていただければと思います。



### ●サメの歯実物化石 クリーニング

1月1日(水・祝)～5日(日)  
ひとつ500円一日限定100個  
開催時間 10:00～12:00、13:00～15:00



### ★魚で富士山の2014カレンダープレゼント

1月1日(水・祝)～5日(日)まで!

両館にて先着、各100名様に  
オリジナルカレンダーをプレゼント致します。



INFORMATIONについての問い合わせ：TEL.054-334-2385

ホームページ <http://www.muse-tokai.jp/>